御手洗地区白山市ミライ会議

1. 会議概要

項目	内容
開催日時	令和8年8月4日（火）19:00〜
開催場所	御手洗コミュニティセンター
参加者	12名（市長、御手洗コミュニティ）
選択トピック	防災力アップを地域力アップに 1. 高齢者の安全・迅速な避難体制の構築 2. 御手洗川の氾濫対策と浸水被害の防止



2. 主な議題と意見

（1）高齢者の安全・迅速な避難体制の構築





① 現状

- 御手洗地区は人口 1200 人に対し 75 歳以上が 300 人以上であり、超高齢化社会である
- 令和 6 年 1 月 1 日の能登地震の際、各町内会で避難が行われたが、高齢者は足が遅く、避難途中で頓挫する者が相当いた
- 普段は若手が外出しており、地域に残るのは高齢者ばかりである

② 課題

- いかにスピーディーで、なおかつ安全に高齢者を移動できる仕組みが必要である。
- 避難所である御手洗コミュニティセンターは地区全体の中央に設置されているが、各町内からのアクセスが悪く、特に車での移動ができない場合、全ての住民が集約できていない
- 旧町内と新興住宅地の住民間で、隣近所の関係が希薄になっており、災害時の相互扶助が機能しにくい状況がある

③ 市の主な方向性・回答・対応

- 地区によって旗を出して安否確認をするなど、安否確認は複数の方法を推奨しており、電子回覧板アプリの導入については、アンケート調査を実施し、ハイブリッド型（紙とアプリ併用）での対応を検討している
- 地域のコミュニティ作りは、災害時の相互扶助に重要であり、日頃からの交流イベント（バーベキューなど）を通じた顔の見える関係構築を推進する
- 北星中学校は二次避難施設として位置付けられているが、近隣企業との協定により、高台への避難ルートを複数確保している

（2）御手洗川の氾濫対策と浸水被害の防止





① 現状

- 相川新町内会では、北陸自動車道に避難所を設置していただいたことを契機に、毎年避難訓練を実施している
- しかし、ここ数年、御手洗川が氾濫するようになり、道路が冠水するようになった
- 昨年 8 月 7 日の豪雨では、相川新町内で一戸が床下浸水し、町内の約半分が冠水した

② 課題

- 大雨が降るたびに川が氾濫するのではないかという不安があり、独自に土のうを家の前に置いているお宅もあり、特に床下浸水した家では、再度の浸水に対する強い不安がある

- 町内での河川改修はこれまで複数回実施されているが、これ以上の対策はできないと言われており、バイパス河川の設置が必要との声が上がっている
- 御手洗地区は市内で最も低い位置にあり、上流から流れてくる水が集中するため、海の潮位が高い場合、川の排水ができなくなる問題がある
- 工業団地の開発により、企業用地での雨水貯蔵基準の見直しが必要である

③ 市の主な方向性・回答・対応

- 根本的な対策として、支流を別の場所に流すことは有効であるが、海岸沿いでは潮位が高くなると流れないことも考えなければならない
- 相川新町は浸水対策の対象地区として、今年の夏から現況調査を行い、実効性のある対策を検討し、今後の実施につなげる予定である
- 田んぼダムをはじめとした治水対策の検討も必要である
- 各町内会単位での防災力アップが必要であり、町内ごとの班ごとのつながりと助け合いが重要である

---

3. まとめ

御手洗地区は、東日本大震災を契機に、防災力アップに積極的に取り組み、人口1400 人に対し 75 歳以上が 300 人以上という超高齢化が進む中、地域コミュニティ組織主導で活動を行うよう、地域力アップに取り組んでいる地区です。

今回のミライ会議では、高齢者の安全で迅速な避難体制の構築と昨年の豪雨で実際に床下浸水被害が発生した相川新町内を中心に、浸水対策の必要性という 2 つの課題について話し合いました。

市としましては、地域住民が自ら地域の防災課題を考え、共有し、話し合うことが重要であり、ハイブリッド型での電子回覧板アプリ導入の検討、交流イベントを通じた顔の見える関係構築、北星中学校の二次避難施設位置付けの現状や地域内の避難ルート確保、浸水対策の検討を行うなど、行政も地域と相談しながら改善につなげていくことを確認しました。

